日本統一運動News Letter
Japan Unification Movement News Letter
制作／世界平和統一家庭連合・広報局
（旧 世界基督教統一神霊協会）

VISION 2020

結婚と家庭の価値を守り、国家再生のため尽力しよう！

「真の家庭国民運動推進全国大会 2015」に 900 人が参加

11月8日、東京都千代田区で「真の家庭国民運動推進全国大会2015」（主催：同実行委員会）が開催され、政界、学界、宗教界、教育界など各界の有識者ら約900人が参加しました。

2014年4月、結婚と家庭の価値を守り、日本創生の実現を目指して発足した「真の家庭国民運動推進全国会議（以下、全国会議）」。その後、全国会議の目的を日本各地で展開すべく、同年6月に福井県会議が結成されたのを皮切りに、今年10月までに47都道府県のすべてで会議が結成されました。全国会議では今年、「深めよう家族のキズナ、広げよう家族のチカラ」をテーマに、全国で「WE WILL STAND！ファミリープロジェクト2015」を実施、「ファミリーファーストキャンペーン」等が行われました。この日の大会には全国会議ならびに各県会議の役員などが集い、これまでの活動成果を共有し、運動のさらなる発展を期する機会となりました。

最初に、鈴木博雄・大会実行委員長（筑波大学名誉教授）が主催者挨拶、「日本は歴史上、幾多の危機に直面してきましたが、それを乗り越えることができたのは伝統的な家庭のおかげです。しかし昨今、個人主義が蔓延し、家庭そのものが弱体化するとともに、様々な問題が頻発しています。今こそ、全国で志を同じくする者たちと力を合わせ、この国民運動の推進を通し、伝統的な家庭を再建し、国家再生のために力を尽くしていきましょう」と述べました。

その後、大会副実行委員長の徳野英治・全国会議会長が同会議発足の意義と活動経過の報告をした後、「救国救世運動として、力強く推進していきたい」と決意を表しました。

続いてNPO法人理事長が講師として記念講演を行いました。講師は塾を経営しながら、50年以上にわたって、家庭教育支援を行ってきたスペシャリスト。最初に、急激に進む少子化に伴い、青少年の傷害事件や殺人事件が増加している現状に触れ、それとともに19歳以下の青年の自殺者が547人（2013年:「自殺の状況」警察庁調査）に上っているなどのデータを示しながら、青少年を取り巻く事態の深刻さを説明しました。

そして、こうした事態を引き起こす子供たちには、①心の居場所がない②自尊心がない③人生の目標がない④他者から必要とされていない――という共通する4つの原因があると指摘。この4つの「ない」がそろったとき、子供たちは非行や自殺に走るようになると述べました。その上で、こうした事態を防ぐための子供に対する家庭教育のポイントとして、①母性（母親の愛情）を十分に与え、心の居場所をつくる②自信を持たせる③目標を持たせる④存在意識を感じさせる――の4つを挙げました。（3面に続く）

①「真の家庭国民運動推進全国大会2015」の参加者　②代表者が「東京宣言」を読み上げた　③大会実行委員たちが「東京宣言」のパネルに署名　④「キラリ！ファミリー賞」の受賞者に記念品が贈呈　⑤愛らしい歌を披露する子供合唱団

“子育ては女性に与えられた特権”

また、理想的な家庭を築くために夫婦関係の重要性を強調するとともに、女性が育児の中心であるべきとの考えを示し、「もちろん男性のサポートも必要ですが、子育てを負担と考えるのではなく、女性に与えられた特権と捉え、楽しむ心でしっかりと育児に励んでほしい。そうすることで親として成長することができます」と子育て世代の女性たちにエールを送りました。

最後に、こうした家庭教育を継続することを通して、子供の心は健全に育まれ、家庭の絆を強めていくことができると語り、話を結びました。

その後、「ファミリーファーストキャンペーン」の一環として行われた「キラリ！ファミリー賞」の表彰が行われ、ファミリー・エピソード部門とファミリー・ボランティア部門で受賞した３組に、それぞれ記念の盾と賞金が手渡されました。

続いて、結婚の神聖な価値の普及と平和で円満な「真の家庭づくり」に向け、決意を込めた宣言文「東京宣言」が読み上げられました。

最後に、宣言文を記したパネルに大会実行委員らが署名し、盛会のうちに幕を閉じました。

①主催者挨拶を行う鈴木博雄・大会実行委員長
②報告を行う徳野英治・全国会議会長
③約 900 人が集まった全国大会

【参加者の感想】

■新聞やテレビで信じられない事件が報じられていますが、その根本原因は家庭の崩壊にあると思います。本日、真の家庭運動を推進する全国大会が開かれたことは非常に時宜を得ており、日本の未来のために望ましいことです。「家庭再建」という非常に大きなテーマに取り組むためには、国民全体を巻き込む運動にしなければならないと痛感します。（大学名誉教授）

■とても温かい雰囲気の感銘深い大会でした。記念講演の中にもありましたが、日本の親は子供の悪いところを先に言うため、子供は自信をなくして悪くなります。子供の良い点を褒めて育てることが必要です。温かい家庭は子供を褒めるところから始まると思います。この運動をともに推進していきたいです。（元校長）

■結婚しない若者が増えてきています。ある若者を対象としたアンケート調査によると、結婚しない理由として、「束縛されたくない。自由でいたい」という回答がトップでした。これは言い換えると、結婚を束縛と捉え、その後の家庭生活を通して得られるであろう喜びや、成長に対する夢や希望を親や社会も伝えられなかったということです。この運動を通して、家庭の価値を改めて喚起することがとても重要だと感じています。（区議会議員）

“みんなで考えよう！幸せな家庭づくり”

山形での講演会に 350 人が参加

①基調講演を行う田中富広・世界平和統一家庭連合副会長
②津軽三味線に合わせて愛らしい踊りを披露した「下山昭義ファミリー」
③講演に聞き入る参加者
④講演会の参加者

11 月 1 日、真の家庭国民運動推進全国会議の「WE WILL STAND ！ ファミリープロジェクト 2015」の協賛企画として、山形県天童市内の会場で講演会「みんなで考えよう！ 幸せな家庭づくり 2015」（主催･同運動推進山形県会議）が開催され、家族連れなど約 350 人が参加しました。

オープニングでは、家族で一座を結成し、日本をはじめ海外でも公演活動をしている津軽三味線奏者「下山昭義ファミリー」による感動的なエンターテインメントが参加者を魅了。特に、軽快な三味線のリズムに合わせた 4 歳から 14 歳までの子供 3 人による愛らしい踊りが会場を沸かせました。

鈴木和章・山形県会議議長の挨拶に続き、田中富広・世界平和統一家庭連合副会長が登壇。「家族のチカラとより良き国造り」をテーマに、基調講演を行いました。

田中副会長は冒頭で、様々なデータが日本の悲観的な未来を予感させていた中、2011 年 3 月 11 日の「東日本大震災」を転機として、日本国民の多くが家族の大切さを再認識したと指摘。また、世界中が日本人の精神性と公共心の高さに驚嘆し、世界に大きな感動を与えたことで、日本人が自信と誇りを取り戻しつつあり、特に未来を担う青年学生たちの中に希望的な変化が現れてきていることを紹介。参加者たちは深い感銘を受け、目の前の霧が晴れていくような明確なビジョンを与えられ、復興していました。

山形県は全国で最も三世代での同居率が高く、もともと家庭･家族のあり方への関心が高い土地柄です。そうした背景もあって、山形県会議では、真の家庭運動を啓蒙する講演会や大会の開催に力を入れてきました。中でも壮年部が非常に復興し、今回の大会も準備から運営までの実務をほとんど壮年部が担当しました。

田中副会長を迎えて行われた今回の講演会は、山形における真の家庭運動にいっそう弾みをつける契機となりました。

【参加者の感想】

■この大会は親族を連れてきたくなる大会です。今回参加した親族も「とてもいい講演で、分かりやすかった。またあったら、是非誘って下さい」と言っていました。準備して下さった皆様に本当に感謝します。（50 代　女性）

■家族が一つになって演奏する津軽三味線が素晴らしく、また、講師の話も分かりやすく感銘を受けました。特に、日本人に生まれたことにあらためて誇りを感じました。家族と青年が大切ということは本当にその通りで、この運動に希望を感じるので、頑張って欲しいと思います。（60 代　男性）

“家庭連合時代のモデル教会に”

真の父母様、長野家庭教会ご訪問２周年

①

②

③

④

⑤

①宋龍天総会長を迎えて行われた「北長野家庭連合特別礼拝」（10月4日、長野家庭教会）
②米大陸徒歩横断を勝利した町田松夫さんご夫妻と記念撮影する宋龍天総会長
③会場を盛り上げた「リアライズサン」の演奏
④記念礼拝で説教をする徳野英治会長（10月18日）
⑤記念礼拝に参加した教会員

真の父母様の長野家庭教会ご訪問２周年を迎えるのに際し、宋龍天（ソンヨンチョン）・全国祝福家庭総連合会総会長と徳野英治・世界平和統一家庭連合会長が相次いで長野市の同教会を訪問し、地元の食口たちは大きな恩恵を受けました。2013年10月、真のお母様をお迎えし、日本全国５カ所で「日本宣教55周年記念大会」が行われましたが、同10月20日、教会施設としては唯一、長野家庭教会が大会会場となりました。

北長野教区のメンバーたちにとってこの２年間は、真のお母様と約束した“10倍化”を１日も早く果たすため、真の父母様から頂いた“心情の種”を皆で長野の地に蒔き、たくさんの実を結ばせようと走り続けた期間でした。

お母様が長野の地に滞在されたのは僅かな時間でしたが、その前にお母様をお迎えするために準備した８年の精誠期間がありました。それゆえに、メンバーたちは「お母様と共に暮らした」という実感が強く、今なお教会の至る所でお母様の香りを感じています。

10月４日、宋龍天総会長をお迎えして特別礼拝が開催され、約450人が礼拝堂を埋め尽くしました。

宋総会長は説教の冒頭、「今回長野に来るようになったのは、天から急に『北長野に行きなさい』と啓示があったからです。皆さん嬉しいでしょう？ 北長野は私の故郷のような教会です」と語りました。

また、18年ぶりの「スーパームーン」や「世界平和統一家庭連合」への名称変更に言及しながら、「天から祝福された新しい希望の出発の時を迎えています」と強調。「今日の礼拝は、単なる記念礼拝ではなく、日本家庭連合の出発記念礼拝です。長野家庭教会は天一国時代、家庭連合時代のモデル教会になってください」と祝福の言葉を贈りました。

宋総会長は説教の後、この１年間で実践メンバーとなった新しい食口141人に花を直接プレゼントし、一人ひとりと記念撮影を行いました。

10月18日には、徳野英治・世界平和統一家庭連合会長ご夫妻をお迎えし、「真の父母様来教２周年記念礼拝」を開催。会場は約450人の参加者で一杯となりました。

徳野会長は説教で、「（真のお母様をお迎えし）長野家庭教会が“聖地”となったことは、どんなに感謝しても感謝しきれないことです。その時にお母様に誓った“10倍化”を是非とも早く達成してください」と激励。その上で、2020年に向かう私たちの姿勢について説明し、「家庭連合に名称変更しましたが、これからは私たちの家庭が教えのごとく理想家庭になっているのかが問われます。み言の訓読を通じ、より深く正しい真の父母観を持ち、主流的信仰観、本流的信仰観を体恤する者とならなければなりません。真のお父様に対する最高の恩返しは、真のお母様をお支えすることです」と語りました。

続いて、「天運相続飴まき」が行われ、徳野会長ご夫妻と牧会者が会場全体にお祝いの飴をまき、皆で恵みを分かち合いました。

【伝道リポート】

家庭時代を迎えた喜びが伝道に異次元の活力注入

真の父母様が成したかった、神様が見たかった“家庭時代”を迎えた喜びは、食口たちの伝道の歩みに、異次元の活力を与えています。真の家庭時代にふさわしい私たちとなるためには、まずは変わらぬ精誠を尽くすことが不可欠だと実感しています。毎朝の訓読祈祷会は1400日を越え、ちょうど2020年を迎える時に3000日を越えていきます。

また、個人救済時代を越えて、家庭で天に侍る生活を実践していくことも重要です。祝福がゴールではなく、教育を受けて新たに入会した夫たちが、妻たちとペアになって伝道実践に出発していく麗しい姿……。「世界平和統一家庭連合」と書かれたIDカードを首から下げ、歩む足取りは軽やかそのものです。“夫婦伝道前線”には、自然と笑みがあふれます。

そして、北長野教区では、伝道の入口だけではなく“教育”に時間と人材を投入しています。まさに「教育こそが最大の愛」であり、「1年で実践できる食口をいかに育てるか！」を教育の目標として取り組んでいます。

その教育の結実となった方々の中から、39人が新規ツアーを組んで10月の秋季清平特別大役事に参加しました。メンバーが天正宮博物館を訪問した時、空に二つの太陽が見えたので、思わずシャッターを切りました。

後日、その時の写真を見つめていた宮下明美・教区婦人代表は、思わず「あっ！」と大きな声を上げました。「お父様がいらっしゃる！」と言うのです。なんと、その写真の二つの太陽の間には、優しく皆を見つめておられるお父様の眼差しがハッキリと写っているではありませんか！

真の父母様は以前、「お父様にお会いしたいのなら、たくさんの実績をもって清平に来なさい」とおっしゃいました。見事に成長した新メンバーの前にお父様が現れてくださったのです。尊い眼差しを見て、「やはりみ言の通りなのだなあ」と実感しました。

2020年に向けて誰よりも涙と精誠を尽くされる真のお母様。私たちは、さらなる伝道と教育の結実をもって、必ず“10倍化”の約束を果たして参ります！

（北長野教区　伝道部長　吉沢 始）

2015年10月、北長野教区の食口が韓国・清平の天正宮博物館の上空を撮影した写真（円内に真のお父様の“眼差し”が見える）

天の恩恵を親族・地域社会に連結

山梨、東広島で祝福式を挙行

（山梨）①山梨教区で行われた祝福式の参加者（11月1日）　②主礼の佐野邦雄・家庭教育局長ご夫妻による「聖婚問答」
（東広島）③450人が参加した東広島教区の「祝福フェスティバル」（11月8日）　④成和学生部によるコーラス　⑤演奏する青年バンド「ミルキーウェイ」

○山梨

清々しい秋晴れの11月1日、主礼に佐野邦雄・家庭教育局長ご夫妻をお迎えし、「2016天地人真の父母天宙祝福式」が山梨県甲府市内の会場で行われ、祝賀客を含めて165人が参列。既成祝福と独身祝福を併せ14組の祝福家庭が誕生しました。

まず、チャペルで金芳守（キムハンス）・山梨教区長夫妻による聖酒式が行われた後、祝福式会場に介添人の先導で主礼ご夫妻が入場。式典に先立ち、主礼の佐野局長が「祝福」の核心的内容を分かりやすく語り、参加者は真剣に耳を傾けていました。

第1部の祝福式は、聖水儀式、成婚問答、祝祷、指輪の交換、成婚宣布と滞りなく進み、最後に地元議員と大学名誉教授が祝辞を贈りました。

第2部の祝賀会は、聖歌隊の祝歌「宴のとき」「翼を下さい」で開幕。小学生による「栄光のかけ橋」の合唱、ピアノとエレクトーンの演奏、祝いの歌と続きました。

その後、主礼から激励のメッセージがあり、参加者一人ひとりにプレゼントが手渡されました。会場には笑顔が溢れ、和やかな雰囲気の中、新しい出発の決意を込めた億万歳をもって閉会しました。

両親を祝福に導いたある婦人は「主人と義母の協助がとても大きく、それがなければ成せなかったと思います。夫婦・家族が一体となって歩むこと大切さ、尊さを心から実感しました」と証していました。

○東広島

11月8日、祝福式とファミリーフェスティバルを融合させたイベント「祝福フェスティバル in 東広島」が広島県福山市内の会場で行われ、大人から子供まで約450人が集いました。「祝福を受ける人だけでなく、すでに受けた人も、これから受ける人も幅広く参加出来る企画をしよう」との金斗衡（キムトゥヒョン）東広島教区長の発案で企画されたものです。

第1部では、「ソングフォーユー」「ハッピーボイス」による爽やかなコーラスで会場が和みました。次に、地元議員の祝辞、映像「祝福式」の上映、光永一也伝道教育部長による「祝福の意義」の説明の後、主礼の金斗衡教区長ご夫妻をお迎えし、「聖酒式」と「祝福式」が行われ、既成祝福3組と独身祝福4組、計7組の祝福家庭が誕生しました。

第2部は、子供たちも参加してにぎやかにアトラクションがスタート。青年バンド「ミルキーウェイ」によるバラード演奏、成和学生部のコーラスに続き、初めての企画として、親・子・孫の三世代で来場した12家庭にプレゼントが贈呈されました。

次に、アトラクションのメインとしてプロ歌手の「ミニライブ」で盛り上がった後、大抽選会と記念撮影が行われ、閉会しました。

今回のイベントは、既成祝福を受けた若いカップルの親族11人が参加するなど、地域に根差した催しとなりました。

“結婚、家族っていいな…”

南東京で「ファミリーフェスティバル2015」

①講演を行う平和大使協議会中央会の小笠原員利氏
②主催者挨拶を行う堀正一・南東京教区長
③成和学生部によるエネルギッシュなダンス
④参加者の心に響く歌を披露した入澤希誉さん
⑤「家族紹介」に登場した日本・タイ家庭の夫婦と双子の赤ちゃん

11月3日の文化の日、東京･目黒で南東京「ファミリーフェスティバル2015」が行われ、地元議員をはじめ総勢400人が集いました。雲一つない秋晴れの下、幼児からおじいちゃん･おばあちゃんまで三世代・四世代にわたる家族を含め、多くの家族連れで会場が溢れ、家庭連合時代にふさわしい大会となりました。

南東京では、昨年10月26日に韓国・清平で行われた「VISION2020 神氏族メシヤ使命勝利のための世界連合礼拝」における真のお母様のメッセージを出発点として、堀正一・南東京教区長を中心に真のお父様の聖和3周年までの1年間、1200双祝福を目指して取り組みました。本大会はその勝利基台の上に、新たな家庭連合時代を迎え、神氏族メシヤ使命勝利に向けての家族の祭典となりました。

フェスティバルでは、岡光君啓（きみひろ）・希苑教会副教会長の開会宣言の後、堀正一教区長が「家族の尊さ、素晴らしさを確認し合うひとときをお愉しみ下さい」と挨拶。続いて､大学教授が「一緒に真の家庭を目指して、しっかり進んで参りましょう」と語りました。その後、二人の地元議員が祝辞を贈りました。

続くエンターティメントでは、10月12日に千葉・幕張で行われた世界平和統一家庭連合出帆記念大会のオープニングを飾った南東京教区・成和学生部の若々しくエネルギッシュなダンスと、入澤希誉（きよ）さんの歌が披露されました。壇上で舞う中高生の見事に揃ったダンスに驚きの声が上がり、入澤さんの会場全体に染み渡るような「赤とんぼ」には、涙ぐみながら一緒に口ずさむ老婦人の姿がありました。

家族紹介では、「良心」の気づきを大切にして家族愛を育もうと努力している家庭、生後6か月の双子の赤ちゃんを抱っこしながら登場した日本人・タイ人の夫婦、祖母・夫婦・3人娘の三世代6人の家庭が順番に登場。それぞれの家庭が自己紹介の映像と共に、家庭自慢や愉快なエピソードを披露すると、会場では笑い声と拍手が起きました。

メインスピーチでは、平和大使協議会中央会の小笠原員利（かずとし）講師が、結婚し家庭人として歩む人生と独身のまま生涯を送る人生を比較しながら、ユーモアたっぷりの語り口で、大切な内容を分かり易く解説しました。

初めて参加した独身女性は「（講師の話を聞いて）結婚っていいなと思いました。喜んだり、悩んだり、様々なことを共有したい」と感想を述べていました。

最後の抽選会では、当選者の名前が読み上げられるたびに大きな歓声があがり、家族や友人どうしで喜びあう姿が見られ、喜びと笑顔に満たされた時間となりました。

“真の父母様、私たちがここにいます！”

第７地区で「GYF」「中和文化祭」開催

①基調講演を行う本山勝道W-CARP JAPAN会長
②主催者挨拶をする李炯燮・第７地区長
③高校生による海外活動報告
④青年メンバーのパフォーマンスで会場は大盛り上がり
⑤第７地区「グローバル・ユース・フェスティバル2015」の参加者

11月３日、富山県内の会場で第７地区（北陸）「グローバル･ユース･フェスティバル（GYF）2015」が開催されました。今回は「第19回全国中和文化祭・第７地区大会」との同時開催となり、会場には中高生や青年、壮年・婦人など合わせて約800人が集まりました。

大会テーマに「“希望”～HERE, WE ARE！～」を掲げ、真のお父様の聖和３周年記念式に合わせて行なわれた青年学生世界総会で受けた恩恵と、そこで真のお母様に捧げた決意とを第７地区に連結することを目指して行われた今大会。教区を超えて地区全体の二世・青年圏が一体化する場として、普段なかなか教会に足を運べていないメンバーにも積極的に声を掛けました。さらに、真の父母様の心情を中心とした私たちの心情文化を社会に発信していくという強い意識を持ちながら、学校の友人などと一緒に参加するメンバーも多くいました。

大会は、天父報恩鼓の活気あふれる演舞で開幕。李炯燮（イヒョンソプ）第７地区長による主催者挨拶、来賓からのメッセージの後、本山勝道W-CARP JAPAN会長が基調講演を行いました。

本山会長は、「青年たちの『良心革命』から、躍動する日本、希望の未来へ」と題する講演の中で、北陸の地からたくさんの偉人・賢人が生まれてきたことに触れながら、一人ひとりが学びを深めることの大切さを強調。また、真のお父様の自叙伝『平和を愛する世界人として』から「良心」に関する一文を紹介した上で、「世界の様々な人々に対して兄弟姉妹の愛を抱き、夢をもって志を立てる人こそ、日本や世界にとって希望となり得ます」と訴えました。

基調講演の後、中和文化祭のエンターテイメント部門の発表が行われ、福井、富山、岐阜、石川の各教区が精誠を込め準備してきた劇やダンスなどが披露。心に染み入る物語や迫力あるダンス、コミカルな演劇などに、会場は何度も拍手喝采となりました。

休憩を挟んで行われた午後の部は、フルートとバイオリンによる美しく躍動感のある演奏から始まり、高校生の海外活動報告とスピーチが行われました。実体験に基づく心の成長の証しは参加者の心に深い感動を与えました。

続いて行われた青年のパフォーマンスは、それぞれの教区の個性を活かした実に多彩な内容で、会場は大いに盛り上がりました。

最後に、参加者の未来への希望のメッセージを集め、第７地区の巨大な地図上に表現した作品が発表された後、表彰式と抽選会を行い、会場全体が一つになっていく雰囲気の中で、フィナーレの合唱と共に大会は幕を閉じました。

中和文化祭とGYFの同時開催という初の試みでしたが、世代を超え、まさに家族としての絆が深まり、未来への希望を感じる家庭連合時代にふさわしい大会となりました。

“家庭連合時代”の文化を堪能

川崎で「孝誠学苑祭」開催

①祝辞を述べる本山勝道W-CARP JAPAN会長
②説教を行う杉田善忠孝成教会長
③成和学生部のダンス「まれの主題歌」
④韓国語教室小学低学年の子供たちによる踊り「ホーキーポーキー」
⑤人気を集めたバザー

11月１日、川崎市の孝成家庭教会で「孝誠学苑祭」が開催されました。孝誠学苑祭とは、教会員の父母や祖父母、親族などを教会に招き、祝福二世たちのステージや美術作品などを通して、祝福家庭の素晴らしさを伝える毎年恒例のイベントです。

今回は「Here we are! 本当の自分を探しましょう」をテーマに、幼児と小学校低学年による「天父報恩鼓」の演舞、小学生による合唱、成和学生や大学生のダンス、韓国語教室の生徒による踊りなど多彩なパフォーマンスが披露されました。参加者が心を一つにした華やかなステージとなり、特に韓国語教室の扇の舞の踊りなどは、会場から歓声が上がるほど感動的でした。

学苑祭では、来賓を代表して本山勝道W-CARP Japan会長が祝辞を送り、地元議員が激励の挨拶を行いました。

また、孝成家庭教会の杉田善忠教会長が「天一国主人の生活」と題して記念説教。真のお父様のみ言「真の自分を探しましょう」を中心に、本心・良心と邪心の働きについて詳細に説明しながら、「真の愛を中心とした本当の自分を探すことができる」と分かりやすく伝えました。

続いて、祝福二世の大学生が「本当の自分」と題してプレゼンテーション。南米やフィリピンでボランティア活動をやってきた体験を紹介しながら、「人類一家族世界をつくり、全人類を幸せにすること目指します！」と力強く宣言しました。

午後からは、教会員の手作りの焼きそばやカレーライス、飲み物などが参加者に振る舞われました。また、バザーや作品展、家族写真撮影会などの企画も目白押しで、来場した家族全員が楽しいひと時を過ごしました。

当日は、教会員の親族や教会に通い始めて間もない人々も多数参加し、とても復興していました。参加者の喜びや感動の声の一部を紹介します。

「海外でボランティア活動をしてきた大学生のプレゼンに感動しました」

「今どきの子は、恥ずかしがって真面目にやらなかったりすることが多いのですが、（祝福二世たちは）熱心さと輝きが違うと感じました」

「最初はお話を聞くだけのつもりで来たのですが、こんなに華やかな踊りや歌を見られるとは思っていませんでした。本当に元気をもらい、心が前向きになれました」

「杉田教会長の説教を聞いて、私には邪心がたくさんあると感じました。今日はありのままの自分をさらけ出していろいろとお話をすることができました」

「場所も分かったので、今度は一人でもまた来たいと思います」

このイベントを通して、参加者たちは家庭連合時代の文化を実感すると共に、神氏族メシヤとして理想家庭実現に向けて前進する場となりました。

大阪平和霊園で「第21回聖和祝祭」

爽やかな秋空のもと250人が参加

①説教を行う李成萬・企画本部長
②主催者挨拶をする朱鎭台・第9地区長
③献花を行う遺族代表
④天父報恩鼓を披露する堺西家庭教会の子供たち
⑤聖和祝祭の参加者

11月3日、聖和者176柱が眠る「大阪平和霊園」（奈良県三郷町）において、家庭連合本部から李成萬（ソンマン）企画本部長を迎えて「第21回聖和祝祭」が開催され、近畿圏を中心に全国から聖和者の遺族など約250人が集まりました。この日は、すがすがしい秋空に恵まれ、式の途中で差し込む日差しにも天の父母様の大きな愛と祝福を感じる恵み深いひと時となりました。

式前公演として、まず堺西家庭教会の子供たちが「天父報恩鼓」の演舞を披露。続いて、祝福二世の女性シンガーがマンドリン演奏と澄み切った歌声で聖和祝祭の場を清めました。

聖和祝祭は、槇岡宏第9地区家庭教育部長の開式宣言で厳かに開幕。最初に遺族代表が代表報告祈祷、真のお父様の聖和3周年を越え、真のお母様の愛と精誠の勝利によって「家庭連合時代」を迎えた基台の上で、10月末の秋季清平特別大役事から真の父母様の直接主管による役事がスタートしたこと触れ、このタイミングで聖和祝祭を開催できることに深い感謝を捧げました。

次に、花岡裕厚生部長が経過報告を行い、2015年に新たに6柱が入園したことを紹介。その上で、天一国時代にふさわしい聖和祝祭文化を築いていく重要性を強調しました。

続いて、朱鎭台（シュジンテ）・第9地区長が主催者挨拶。素晴らしい秋空と聖和祝祭の機会を与えてくださった天の父母様、真の父母様に感謝を捧げ、主礼の李成萬本部長を紹介しました。

李成萬本部長は説教の中で、十月十日の胎中生活から約100年の地上生活を経て永遠の霊界へとつながる人生の3段階について語りながら、祝福結婚と共に「聖和」の尊さを強調。その上で、「聖和者たちが、真の父母様と同じ時代に生まれ、出会い、共に生き、そして祝福を受け、聖和式を通過するということは奇跡的な恩恵だ」と語りました。

遺族たちは、霊界の聖和者たちと共に感謝を捧げると同時に、霊肉界合同で神氏族メシヤの使命成就を誓う時間となりました。

聖和者家庭の代表が献花をした後、遺族代表が挨拶し、聖和式を通じて反対していた親族の心が変わり、教会に導かれるようになった経緯を説明しながら、聖和祝祭文化を拡散させていく大切さについて語りました。

最後に、全体祈祷を行い、億万歳四唱をもって、閉会しました。

その後、スタッフたちが真心を込めて準備した豚汁が出席者に振る舞われ、霊界の聖和者と地上の家族同士が温かい雰囲気の中で和動し合う時間を過ごしました。

全国の伝道の証し

両親と祝福式に参加した夫婦が見た奇跡

南東京教区 南大田家庭教会　会社員（男性）

家庭連合との出会いは、5年ほど前のことになります。妻にとって、その出会いは真っ暗な闇の中に見出した一点の光明でした。

私たち夫婦はなかなか子宝に恵まれず、妻は3度の流産を経験していました。自宅と産婦人科との往復をしながら鬱のような状態になった当時の妻は、私が感じていた以上に辛い日々を送っていたのだと思います。

そんな妻から家庭連合に通い始めたと聞いた時、私は決して好意的な思いを持てませんでした。ただ、妻の気持ちを尊重しようと考え、家庭連合の書物を数冊読んではみましたが、ネガティブな結論に至り、辞めさせようと考えました。そんな時に突然、私に大阪への転勤の辞令が下ったのです。夫婦が別々の生活となったため、辞めさせる機会を失いました。

ところがそれ以降、妻と私の身の上に奇跡的な出来事が起こり始めたのです。

まず、治療のため鬱のような状態だった妻が、真のお父様の自叙伝書写などを通して変わり始めました。それから結婚式場やホテル、デパートからの招待状の宛名書きなど、毛筆書きの依頼が次々と舞い込んで来ることで活気のある毎日を送るようになり、すっかり以前の明るさを取り戻しました。

また、私の転勤に伴い、妻もそれまで住んでいた社宅から出ることになったのですが、導かれて希望していた通りの住まいがすぐに見つかりました。

私の身にも奇跡のような出来事が二つ起こりました。

一つ目は、検査で大腸のポリープが見つかったのですが、すぐに摘出手術を受けることで大事には至らずに済みました。

二つ目は、食事をするために行きつけの食堂に向っていた時のことです。いつもは同じ時間に到着して同じ席で食事をするのですが、その日は少し遅れました。それが幸いし、食堂に到着する寸前に目の前で、しかも私がいつも座っていた席のガラス窓に車が飛び込むという事故が起きたのです。

その時、ふと空を見上げると虹がかかっていました。私は「これはもしかすると、神様のご加護かもしれない」と思い、「目に見えないもの」に守られていることを実感しました。妻も「神様や真の父母様、我が家のご先祖様が守ってくれたから」と言っていました。

そうした出来事があったすぐ後に、妻から「夫婦で祝福式に参加したい」と言われ、後から振り返ると自分でも不思議だと思うほどすんなりと承諾しました。

また同じ頃、妻の母が突然認知症を患い、山梨から妻の両親を呼び寄せて一緒に暮らすことになりました。妻から「両親も一緒に祝福を受けましょう」と提案があり、4人そろって祝福式に参加しました。

最大の奇跡が始まったのはここからです。

祝福を受けた翌日、義母が認知症からすっかり回復し、料理や洗濯、掃除など、以前のように家事ができるようになったのです。元気になった妻の両親は、また山梨に戻って暮らしています。まるで祝福を受けるために、義母が認知症になったかのようです。

私はこれらの出来事を目の当たりにして、もう家庭連合を否定する余地はないように思いました。数々の書籍を読んでみましたが、家庭連合の教えは本当に純粋で中庸であることに気付きました。自分でも以前の思いから180度考え方が変わったことに驚いています。

これから様々なことがあったとしても、天の父母様や真の父母様の下で、すべて乗り越えていけると信じています。